

パートナー・協力組織

主なご支援いただいた組織・団体

- ・国連世界食糧計画(WFP)・外務省・(独)国際協力機構(JICA)・(独)環境再生保全機構・国際母子手帳委員会
- ・リトルベビーサークル全国ネットワーク・(特非)日本パプアニューギニア協会・(公社)日本WHO協会
- ・(公財)味の素ファンデーション・(公財)風立つライオン基金・(公信)地球環境日本基金・長崎大学
- ・(一社)日本家族計画協会・アサヒグループ食品(株)・カネソン(株)・(株)コベル・(株)ディーエーネットワーキング
- ・READYFOR(株)・CAWeC (Community Action for the Welfare of Children)

会員・マンスリーサポーター (2024年11月末現在)

正会員	賛助会員	マンスリーサポーター
個人34人、法人1団体：ユニ・チャーム(株)	個人23人、法人1団体：ピジョン(株)	60人

役員・アドバイザー

代表理事	横田 雅史 (シェア=国際保健協力市民の会理事、NPO法人ケニアの未来理事)
理事	風間 春樹 (株式会社セイエル鳥取営業所 管理薬剤師) 神谷 保彦 (長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 教授) 當山 紀子 (大阪大学大学院医学系研究科附属次のいのちを守る人材育成教育研究センター 特任准教授) 西原 三佳 (帝京大学大学院公衆衛生学研究科 講師) 藤井 千江美 (高知大学医学部看護学科 助教) 李 節子 (長崎県立大学名誉教授)
監事	田中 徹二 (グローバル連帯税フォーラム 代表理事)
顧問/シニアアドバイザー	中村 安秀 (日本WHO協会理事長、大阪大学名誉教授)
テクニカルアドバイザー	大西 真由美 (長崎大学生命医科学域 (保健学系) 教授) 板東 あけみ (国際母子手帳委員会 事務局長) 森元 泰行 (The Alliance Bioversity International and CIAT専任研究員) 渡邊 洋子 (元東京都八王子市保健所 所長)

会計報告

2023年度 (2023年7月~2024年6月)

前期繰越収入	9,927,509円	支出	55,394,722円
	62,981,468円	次期繰越	17,514,255円

【HANDS は認定 NPO 法人です】

「認定 NPO 法人」とはNPO法人のうち「一定の基準を満たしている」と諸官庁が認めた法人のことで、認定NPO法人への寄付は次のような税制待遇の対象となります。

- ・個人の場合：「寄付金控除」を受けることができます。寄付額の40%が戻ってきます。
- ・相続人が相続財産を寄付した場合：寄付した相続財産は相続税が非課税になります。

HANDSへのご支援のお願い

活動をより充実させ、より広く一般に知っていただけるよう、皆さまからのご支援をお願いしております。

【会員になる】	【寄付をする】
・正会員 (会員総会での発言権、議決権あり)： 個人：10,000円/年 法人：100,000円/年	・マンスリーサポートプログラム： 毎月 500円~のご希望額をクレジットカードでお引落し (手数料は HANDS 負担)
・賛助会員： 個人：5,000円/年 法人：50,000円/年	・お好きな時に、お好きな額、活動を選んで応援 (活動指定なしも可能です。) 1. ケニア事業 2. パプアニューギニア事業 3. シエラレオネ事業 4. 母子手帳活動 5. リトルベビー活動 6. HANDS運営

お振込またはクレジットカードでご寄付いただけます。

郵便振替
00170-6-409760
特定非営利活動法人HANDS

* 通信欄に会員種別または指定事業名をご明記ください。

銀行振込 三菱UFJ銀行
本郷支店 [普通] 0015114
特定非営利活動法人HANDS

* 表紙の連絡先へ会員種別または指定事業名をご連絡下さい。



<クレジットカードはHPからどうぞ>



(認定)特定非営利活動法人

HANDS

〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3F
TEL: 03-5738-7135 Email: info@hands.or.jp

2023-2024

活動報告

Our Mission

保健医療の仕組み
づくりと人づくりを通
じて、世界の
人びとが自らの
健康を守ることに
できる社会を
実現するために行動
します。



(シエラレオネ：モリンガ料理講習会)

2023年~2024年を振り返って

2024年5月にHANDSが活動するパプアニューギニアのエンガ州で大規模な地滑りが起きました。HANDSでは被災地周辺に住む村落保健アシスタント (VHA) と協力して、被災者への支援を行っています。現地での今までの経験をもとに、被災された方にとって本当に必要な支援がなにかを確認したうえで今後も支援を続けていきます。

FOLLOW HANDS!



ngohands
npoHANDS
@ngohands

www.hands.or.jp

HANDSの主な活動

- ・農村部において小学校から地域へと育むモリンガを活用した持続可能な栄養改善のしくみ作り
- ・母子手帳に関する情報提供/講師派遣
- ・リトルベビー保護者サークルへの支援
- ・リトルベビーハンドブックの普及推進
- ・ライガム郡山岳地域の母子保健サービス改善事業
- ・ムリタカ地域の地滑り被災者のための支援活動
- ・幼児の栄養改善事業
- ・サトウキビ農家へのアグロフォレストリー普及
- ・子どもたちと守る生物多様性

パプアニューギニア

Papua New Guinea

- ・山岳地域の母子保健サービス改善事業
- ・ムリタカ地域の地滑り被災者のための支援活動

2014年から山岳地域のエンガ州で活動を行っています。厳しい地理的条件や医療体制により必要な保健医療サービスが届きにくく、また社会的背景や伝統的習慣により、出産に関わる問題で亡くなる女性も多くいます。このような状況を改善するため、地元の保健局と協力して、病気や出産に関わる問題の予防方法を人々に伝える村落保健アシスタント（VHA）の育成や、移動式診療のサービス改善を支援してきました。それらの活動により、地域住民の保健知識が向上し、行動にも変化が見られるようになり、また定期的な診療や産前健診の環境を整えることができました。

2023～2024年は、これまでの活動成果を活かしながら、さらに母子保健サービスの充実を目指して、地域の人々と行政の協力を得ながら周産期医療サービスの改善活動に取り組み始めました。具体的には、産前・産後健診の充実に向けてVHAへの研修を行い、また分娩環境の整備や、保健医療施設から遠い地域に住む妊婦さんが、出産前に滞在するお産を待つ家の建設を開始しました。

2024年5月に起きたムリタカ地域の大規模地滑り支援として、救援・支援活動を行うVHAたちへのサポートを行っています。今後は被災者たちの安全な地域への集団移住に向け支援を継続していく予定です。

母子手帳・リトルベビー活動

Japan

- ・海外の母子手帳に関する情報提供、母子手帳の貸出しを行い、途上国の母子保健関係者に対する研修（JICA主催）に講師の派遣を行っています。
- ・小さく生まれた赤ちゃん（低出生体重児）の保護者サークルなどについての情報発信をホームページ、SNSなどで随時実施するとともに、メディアへの対応も行っています。
- ・リトルベビーハンドブックおよび保護者サークルを広く紹介するためのリーフレット（4ページ）「小さく生まれた赤ちゃんのご家族へ」を作成し、全国の



児童発達支援事業所および保護者サークルなどに配架しました。

- ・全国の保護者サークルを資金的にも支援するために、マンスリーサポーターを継続しています。

ケニア Kenya

- ・幼児の栄養改善事業
- ・サトウキビ農家へのアグロフォレストリー普及
- ・子供たちと守る生物多様性

2023年に本格的に開始した草の根レベルの幼児の栄養改善事業では、栄養不良の割合の大幅な減少や食事内容の向上といった成果が着実に見え始めました。新たな試みである2歳と3歳児の親子教室も人気を集め、より多くの幼児の保護者たちへ栄養の重要性や改善方法を広めています。2026年の事業終了後も主要な活動が無理なく継続でき、学校が幼児の栄養改善活動の地域の中心であり続ける仕組み作りを、教育局、保健局、農業局と共に進めています。

・3年以上実施してきたサトウキビ農家へのアグロフォレストリー普及活動が終了しました。困難も多々ありましたが、自然環境保全活動の普及による収入や生活の質の向上、地域の団結の強化など多くの成果が見られました。

・伝統食文化や自生樹木の記録を通じて生物多様性を守る活動では、3つの民族の異なる地域の小学校4校の生徒やユースグループが地元の伝統知保有者から地球

シエラレオネ Sierra Leone

- ・農村部において、小学校から地域へと育むモリンガを活用した持続可能な栄養改善のしくみ作り

2019年4月から「将来を担っていく子どもたちが食と栄養の大切さを知り、自らの手で持続した栄養改善を行っていきけるしくみ作り」を目標に、カンビア県にて活動を開始しました。ブルキナファソのモリンガ専門家を外務講師として招き、また地元NGOと協力し、12か所の小学校の敷地に「モリンガ野菜農園」を設立し、そこで収穫できた野菜や多くの栄養素を含むモリンガ葉を給食に加えることで、児童たちの栄養強化を目指しています。教師と児童、各小学校地域に存在する母親支援グループが協働して活動を行い、栄養に関する研修、モリンガ葉粉末の製造貯蔵研修、モリンガ料理講習会等の研修も行ってきました。2024年からは、母親支援グループから地域女性たちに各研修を実施し、知識の定着とモチベーションの向上を図っています。現在は、週2回各学校で曜日を決めてモリンガ給



環境に配慮した豊かな伝統や食文化を学び、これらを地域に普及しました。伝統知に価値を見出し、伝統野菜を有機農法で育てる家庭が増え、それが収入増加につながったケースも多数報告されています。今後はこれらの記録を形にし、さらに普及につなげていきます。



食を提供しています。2023年8月から始めた各児童が自宅ですべて育てる「マイ・モリンガ」の木も順調に成長しています。2024年9月に行った児童の保護者120名の自宅訪問インタビューでも、着実にマイ・モリンガ葉を使って自宅でもモリンガ料理を食べる家庭が増えていることが分かりました。